

庄内ひな街道「日本のお雛さま文化交流会」 in やまがた出羽の國 庄内 & 酒田市ひな巡り（庄内ひな街道）

近年、全国各地で行われ、人気を集めている「ひな巡り」イベント。
本年三月、山形県酒田市で行われた「お雛さま文化交流会」では、全国各地の資料館・団体
メンバーなどのひな人形関係者多数が集まりシンポジウムが開かれた。
今回はその報告とともに「庄内ひな街道」のうち酒田市に残るひな人形をご紹介します。

かつて関西方面との交易で賑わった湊町酒田市。江戸初期、河村瑞賢により西廻り航路が整備され、米の積み出し港として大阪と直結するようになった酒田は、急速に発展し、鎧屋や日本一の大地主として知られる本間家など多くの豪商を生み出した。

酒田から米や紅花などを運んだ北前船は、上方からの帰り荷として塩や木綿、日用品のほか、おひなさまも積んで酒田に運ばれた。

北前船で運ばれ、酒田の旧家に伝わるおひなさまは、非常に贅を尽くしたものが多く、これら由緒あるひな人形たちは今も大切に保管されている。

酒田市や隣接する鶴岡市などの庄内地域では、「庄内ひな街道」として、2月下旬から4月上旬まで、江戸初期からのおひなさまを主要な観光施設等の約24カ所で一斉に展示。この企画は、庄内観光コンベンション協会が、平成11年から始めたもので、公開当初は、12施設での展示だったが、現在は24施設に拡大。全国の観光客を集めている。

「北前船」西廻り航路 大阪を起点に瀬戸内海～日本海を運航

「北前船」は、大阪を起点に瀬戸内海～日本海を運航。幕府は江戸に置かれたが、経済の中心は大阪、京都などの上方地域で、北海道や東北からの物資は、敦賀、小浜から陸路を經由して琵琶湖に入り、琵琶湖の交易船に荷物を載せ、上方に運ばれた。しかしこのルートは、水陸を何度も經由することから、荷物の損傷や、運賃コストがかさみ、新たなルートの開拓が待たれていた。それが山陰～瀬戸内を回って大阪に入る、「西廻り」航路である。以来、西廻り航路は日本海交易の主流に。



日本のお雛さま文化交流会「第1部」

「日本のお雛さま文化交流会」 in やまがた出羽の國 庄内（主催：庄内観光コンベンション協会）が、3月8日（土）、山形県酒田市の東北公益文科大学内の酒田市公益研修センターで開かれた。

当日は、地元児童合唱団によるおひなさまコンサートなどのあと、全国各地のおひなさまの展示などを行っている関係者が多数出席、「ひな祭り」や「おひなさま文化」の役割・将来に受け継いでいくことの大切さを話し合った。

シンポジウム第一部のテーマは「ひな祭り」と日本の「こころ」。(株)

吉徳資料室長の小林すみ江氏による基調講演「雛人形にし・ひがし」では、「人形は文化のかたち」であると、日本の人形の歴史や日本人の考え方を概観、またさまざまなひな人形について解説。その後、パネリストによるシンポジウムが行われ、各地の「ひな祭り」の取り組みや今後のあり方が討論された。本間美術館副理事長の本間万紀子氏は、地元酒田の庄内ひな街道の取り組み、（財）瀬戸町ふるさと振興事業団の池本茂晴氏は、

同町の流しびなについて紹介。また、婦人画報編集長の今田龍子氏は、同誌での庄内のひな人形・ひな菓子の特集時の全国的な反響にふれ、マスメディアと日本文化のあり方を語った。中野区立歴史民俗資料館の榎木志野氏は、自館のひな人形の展示を報告、更に、宝鏡寺の田中正流氏は、地元京都の人形職人の現状、ひな人形の商戦についても言及。「ひな人形を飾る家庭も年々減ってきており、家庭での文化継承が難しくなってきた。このようなひな巡りイベントや美術館などの展示が、これに代わり、今後一層大切になってくるのでは」と提言。人形業界には、耳の痛い討論もなされた。



パネリスト（右から）：池本茂晴氏（用瀬町ふるさと振興事業団理事長）／田中正流氏（宝鏡寺門跡百々御所文庫学芸員）／榎木志野氏（中野区立歴史民俗資料館主任専門研究員）／今田龍子氏（婦人画報編集長）／本間万紀子氏（本間美術館副理事長）とコーディネーターの佐藤晶子氏（月刊SPOON編集長）



基調講演を行った小林すみ江氏（吉徳資料室）

オープニングイベントは、地元児童合唱団によるお雛さまコンサートと琴の演奏などが行われた



会場には地元の人のほか観光客も大勢集まった



後藤山形県副知事（右）や阿部酒田市長（左）も出席。JRと自治体、観光事業者が実施する大型観光キャンペーンとともに、山形県のひな祭りの取り組みや観光事業、地域間の交流について語った



アトラクションの「庄内出羽人形芝居」



日本のお雛さま文化交流会「第2部」

市内のベルナール酒田を会場とする第二部では、県外の参加者も出席し、情報交換などが盛んに行われた。また、松浦資料博物館・福山市鞆の浦歴史民俗資料館・東近江市観光協会・松本市立博物館・北方文化博物館の各参加者から、自館での取り組みが紹介された。



本間家旧本邸

「本間さまには及びもないが、せめてなりたや殿さまに」と謡われ、江戸時代中期、大地主として全国に知られた本間家の旧邸宅。幕府の巡見使を迎える本陣宿として明和五年（1768）に建築、庄内藩主酒井家に献上の後、酒井家から拝領。旗本二千石の格式を持つ長屋門構えの広大な屋敷。棧瓦葺平屋書院造りで、武家屋敷と商家造りが一体となっている全国的にも珍しい建築。

山形県酒田市二番町 12-13

TEL 0234-22-3562



高さ2m、幅2.7mのひな段には時代を異にするさまざまな人形を展示。江戸時代の内裏雛の隣は百歳雛の「相生さま」。二段目左は「おぜんじさま」といわれる火よけの神。酒田は火事が多かったので、火の用心、の意味で、この人形がある

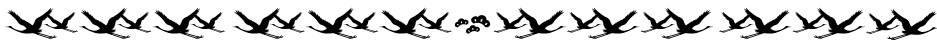
本間家に伝わる由緒あるおひなさまを一般公開。化粧道具・遊び道具等のさまざまな雛道具を展示



家紋の丸本を描いたお膳（江戸時代）



雛屏風・古今雛・犬笥（江戸時代）



清遠閣一階
本間家旧蔵のひな飾り



本間美術館本館
清遠閣二階
広間

本間美術館

昭和 22 年に開館し、収蔵品の他県内外の作家を始め、多様な分野に渡る美術作品を紹介。2 月下旬から 4 月初旬まで「雛祭り古典人形展」を開催、江戸時代から明治までの古典ひな人形を一堂に展示。内裏雛は、元禄年間の立雛から寛永雛・次郎左衛門雛・享保雛・古今雛まで、時代による変遷を追う。京雛・京人形が多く、かつての北前航路の繁栄を窺うことができる。

山形県酒田市御成町 7-7
TEL 0234 - 24 - 4311



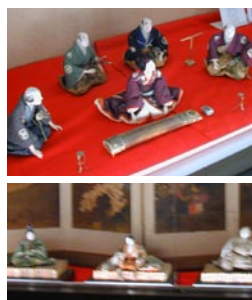
本間美術館 新館



雛を学術的に系統展示



庄内押絵。その特徴は、商品としてではなく、趣味として作られた点にある



上方の人形（上）
と江戸の人形（下）



古今雛（江戸末期）江戸の人形師原舟月の門人といわれる、舟栄作。



古今雛（文化・文政）庄内地方の人形師長次郎作。顔などに風土の影響が見られる

清遠閣



本間美術館に隣接する清遠閣（本館）。文化 10 年（1813）に本間家四代光道が別荘として建設。池泉回遊式庭園「鶴舞園」とともに昭和 22 年、一般に公開。茶室を備えた上座敷・下座敷は、京風の精緻な造り。手吹きガラス窓や御座所のシャンデリアなどに大正ロマンがしのばれ、重厚な樫造りの階段と梅の透かし彫りの欄間などに精巧な手仕事が見られる。「雛祭り古典人形展」では、豪華なひな段や傘福を展示。本館と合わせて 300 体の古典人形が見られる。

◀ 鶴舞園と清遠閣



相馬樓

江戸時代、料亭「相馬屋」として賑わった相馬樓。主屋は、明治27年の庄内大震災の大火で焼失した直後、残った土蔵を取り囲んで建てられ、平成8年、国の登録文化財建造物に指定。修復した相馬樓は、1階の20畳部屋を「茶房くつろぎ処」、2階の大広間は舞娘さんの踊りとお食事を楽しむ舞場、かつての厨房は相馬樓酒田舞娘のけいこ場となっている。

山形県酒田市日吉町一丁目舞娘坂
TEL 0234-21-2310

江戸や上方にも知られた酒田の花柳界。相馬樓では酒田舞娘の踊りも見られる



古今雛は江戸後期、江戸の人形師原舟月が考案し大流行した様式



御所人形、衣裳人形なども多数展示



江戸中期、享保年間（1716～1736年）から流行の始った享保雛（上段右）

山居倉庫 酒田夢の倶楽

山居倉庫は明治26年(1893)、酒田米穀取引所の附属倉庫として建造され、築百年以上経った今も現役の農業倉庫として活躍している。土蔵造りの12棟の屋根は二重構造で、倉の内部は湿気防止構造になっているほか、背後を囲むケヤキの大木は日よけ、風よけの役目を果たし、自然を利用した低温管理が行われている。

山形県酒田市 1-1-20
TEL 0234-22-1223



▲酒田市観光物産館—山居倉庫 酒田夢の倶楽 (ゆめのくら)

▶酒田市山王祭祭礼用亀笠鉾：酒田の豪商、本間家が江戸時代に京都の人形師に酒田山王祭のために作らせた巨大な亀笠鉾



加藤家のおひなさま：江戸時代後期に製作された古今雛。上段右から内裏雛と百歳雛。以下五人の楽人、胡蝶の舞の人形。ともに目は玉眼で40cm以上の大きさ。当時の豪商の繁栄を窺える豪華なもの。展示は3月～4月上旬まで



百歳雛：ともに白髪になるまで元気に暮らせるようにとの願いが込められた



鳥兜をかぶり雅楽を奏でる表情豊かな楽人



常設展示：辻村寿三郎の世界

人形作家・辻村寿三郎の創作人形を展示



料亭茶屋文化が栄えた港町の風情を廊の世に見立てたひな人形「さかたの雛あそび」



酒田あいおい 工藤美術館

酒田市の中心市街地に残る古い町屋を生き、地元の芸術家たちの絵画や書などを展示していこうというユニークな私設美術館。地元で伝わるひな人形、ひな道具を展示。開館は、金・土・日。「庄内ひな街道」期間中は、無休。二ヵ月に一度、展示変えを行っている。

山形県酒田市相生町一丁目3-17
TEL 090-2846-6846

毛せん代わりの裂は、白綸子地草花模様の小袖を縫い直した打敷



60 cmの大型享保雛



日本のお雛さま文化交流会「第2部」後、参加者有志で視察



傘福くらぶ

明治28年に建てられた旧料亭「山王くらぶ」は、平成15年に国の登録文化財に指定され、現在は傘福展示会場として開館。傘福は、海上交通で酒田湊が隆盛をきわめた頃、庶民がそれぞれの意味合いの飾り物を傘先に下げ、願いを込めて寺社に奉納。後にひな飾りにも用いられた。

山形県酒田市日吉町2-5-25
TEL 0234-22-0146



「傘 福」作品の由来

1. ぎんぎん	2. うなぎ	3. てまり	4. 鯛の巻	5. 鯛	6. 鯛	7. 鯛	8. 鯛
ぎんぎんは銀の象徴で、お金のことを表しています。	うなぎは長生きの象徴で、長寿を祈ります。	てまりはめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛の巻はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。
12. 鯛	13. 鯛	14. 鯛	15. 鯛	16. 鯛	17. 鯛	18. 鯛	19. 鯛
鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。
22. 鯛	23. 鯛	24. 鯛	25. 鯛	26. 鯛	27. 鯛	28. 鯛	29. 鯛
鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。
32. 鯛	33. 鯛	34. 鯛	35. 鯛	36. 鯛	37. 鯛	38. 鯛	39. 鯛
鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。
42. 鯛	43. 鯛	44. 鯛	45. 鯛	46. 鯛	47. 鯛	48. 鯛	49. 鯛
鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。	鯛はめでたさを表し、おめでたいことを願います。



60種類の飾り物にはそれぞれ意味が
番傘を加工して、飾り物を下げていく。



静岡県伊豆稲取温泉で、山形・静岡・福岡の代表が集まり、第1回日本三大つるし飾りサミットを開催

日本人形協会東北支部より *寄稿*



酒田商工会議所女性会は、地域
商工業の発展・振興を目指し平
成17年度に傘福事業を展開。会
場では、体験教室も開催

庄内ひな街道

大泉好 (株大泉)



酒田は、山形県・庄内地方の北出羽の富士と称される鳥海山、そして南には出羽三山の最高峰月山に囲まれ、更に日本三大急流舟下りで有名な最上川を中心に配した正に自然に恵まれた土地柄です。市町村合併後は人口も十三万人と膨れ上がり、昔より商業を中心として栄え続けている港町です。江戸時代から大阪・京都など上方方面との交流も盛んで、当時は東の堺とも言われる程の港町で、それなりに文化・人形・ことば等も当地へ伝わり現在でも脈々と根付いている所です。京都からは人形を求め西廻りの船で持ち帰った売買の繰り返しが、現在の酒田の旧家に残っている人形で、それが、なかなか見られない古典びな

が存在している理由であろうと思われます。

先日、「日本のお雛さま文化交流会」のシンポジウムに行きました。五人のパネリストからは、それぞれのおひなさまへのかかり等についてお話があり、人形の大切さを話されており、大変勉強になりました。少々、残念だったのは、最近の若い世代は、ややひな離れの傾向ですので、「母から子へ、子から孫へ」という日本の節句文化を継承していくために、思い出話などをしながら、各家庭でおひなさまを飾りましょう」ということもお話していただき良かったです。

現在、酒田の風習である「傘福」という、傘のつるし飾りを、酒田商工会議所女性部会（当時は白幡月美会長）が、一丸となって復活させ、日本三大つるし飾り、まですに持ち上げております。人形屋としては、大変ありがたい話です。この「傘福」の伝統を継承させるために、小・中・高校に行って、講習会を開催し、商店街でも観光客を呼び込もうと企画立案中で、町ぐるみで力を入れています。機会がありましたら、ぜひ庄内ひな街道巡りにお越しください。